

# 情緒不安定な児童への指導の工夫

- かかわり方の工夫と家庭との連携をとおして -

群 教 ゼ	F09 - 01
	平14.210集

特別研修員 高柳 よし江 (尾島町立尾島小学校)

## 《研究の概要》

本事例研究は、初めての事柄や努力を要する課題に対して情緒不安定になることが多い児童に、気持ちを安定させて行動の変容を図ろうとしたものである。方法として、かかわり方を工夫したり、連絡ノートを活用して学校での頑張りを知らせるなど、家庭との連携を深めたりしてきた。その結果、本人に「よし、やってみよう。」という意欲が芽生え、母親もその子に対しだんだんと理解を見せるようになってきた。



< 児童に対して >

指導方針	具体的な手だて
(1) 受容的・共感的な態度で接し、情緒の安定を図っていく。	・じっくり話を聞く。
(2) 良さを伸ばし、自己肯定感を持たせていく。	・褒めたり励ましたりする。 ・「いいところ見つけたカード」 ・教材の工夫
(3) 欲求不満耐性を養っていく。	・「がんばりマーク」 ・成功体験を味わわせる。



< 家庭に対して >

指導方針	具体的な手だて
(1) 保護者の気持ちを受容し、信頼関係を深めていく。	・母親との面接 ・家庭訪問 ・電話相談
(2) ・児童のよいところを家庭に知らせる。 ・認める場面を多く持つなど、養育態度の変容が図れるよう支援していく。	・連絡ノート ・面接

## < ま と め >

受容的・共感的な態度で受け止めていくことにより、その児童はだんだんと落ち着きを見せ、気持ちを切り替えて物事に対処できるようになり、欲求不満耐性が身に付いてきた。また、認められることで自分に自信を持ち、それが次の活動への意欲付けとなってきている。対人関係においても、友達や教師とのかかわりを楽しむことができるようになってきた。家庭との連携では主に母親と面接を行い、褒めたり認めたりすることが必要だと気付き、実際に家庭でも励ましの言葉をかけている。このことも、児童の行動改善の大きな要因となっている。